

放射能ゴミ焼却炉建設に反対しましょう

田村市民の皆さん

国（環境省）は仮設焼却炉を都路町と川内村の境にある東京電力南いわき開閉所の敷地に造ろうとしています。

都路町の行政区長会・都路町認定農業者会が反対決議をし、都路町と川内村の多くの住民が反対の声を上げていますが、環境省は強引に計画を進めようとしています。

○どのような焼却炉を造ろうとしているのか

一日の処理能力が400トンという大型です（田村東部衛生センターは30トン）。燃やすのは、県中、県南、いわき、会津等から運ばれる稲わら、牧草、たい肥、下水汚泥などで、既設の焼却炉では燃やせない放射能で汚染されたゴミです。

○どのような危険があるのか

環境省は、焼却炉にはバグフィルター（袋状の集塵装置）がついていて放射性物質を吸着した灰を取り除くから大気を汚染することはないと言っています。

しかし、バグフィルターは灰を完全に取り除くことはできず、気化した放射性物質はバグフィルターをすり抜けてしまいます。また一昨年6月6日には新潟市の焼却炉でバグフィルターに穴が開き、高濃度の煤塵が放出された事故も起きています。

○放射能ゴミを積んだトラックが走る

400トンのゴミを運ぶため、10トントラックが毎日50台、福島県の各地からやってきて田村市や川内村の道路を走るようになります。通路になる道路周辺の環境悪化も懸念されます。

○燃やさない別の方法もある

近畿大学と大阪の企業が共同開発した減容化装置のデモンストレーションが、6月5日に川俣町で行われました。この装置は除染廃棄物に熱と圧力を加えて容量を10分の1に圧縮するというものです。このような装置を活用するのも一つの方法です。

燃やすことばかり考えるのではなく、安全な処理方法を考え実行するのが、今まで原発を推進してきた国や東電の責任です。

田村市民の皆さん

このように危険な焼却炉の建設をやめさせるために、国（環境省）に対して反対の声をあげましょう。

環境省は地元住民への説明会で「事前調査や建設は地元住民のご了承がいただけた場合」に行うとしています。しかし、自らの言明に反して7月22日から事前調査を強行しています。地元住民の了承が得られていない現状では、事前調査も建設も行うべきではありません。

放射能ゴミ焼却を考える都路・川内の会

代表 吉田文夫 渡邊一夫

東電南いわき開閉所への仮設焼却炉建設に

反対する署名

環境大臣 望月義夫殿
田村市長 富塚有暲殿
川内村長 遠藤雄幸殿

国（環境省）は田村市都路町と川内村の境にある東電南いわき開閉所の敷地に、1日の処理能力が400トンという大型の仮設焼却炉を造ろうとしています。そして、ほぼ福島県全域から運ばれる稲わら、牧草、たい肥、下水汚泥、それと田村市・川内村の除染ででた草木などを燃やそうとしています。それらには、放射能で汚染された8,000ベクレル/kg超の既設の焼却炉では燃やせないゴミが多く含まれています。

環境省は、焼却炉にはバグフィルター（袋状の集塵装置）がついていて、放射性物質を吸着した灰を取り除くから大気を汚染することはないと言っています。

しかし、バグフィルターは、灰を完全には取り除いてはいないし、気化した放射性物質はバグフィルターを擦り抜けてしまいます。また、一昨年6月6日には、新潟市の焼却炉でバグフィルターに穴が開き、高濃度の煤塵が大気中に放出された事故も起きています。

このように、大気中に放射能が放出される恐れのある、危険な仮設焼却炉の建設に、都路町区長会・都路町認定農業者会が反対決議をし、都路町と川内村の多くの住民が反対の声を上げています。

よって私たちは、東電南いわき開閉所への仮設焼却炉建設計画の白紙撤回を求めます。

氏名	住所

放射能ゴミ焼却を考える都路・川内の会

代表 吉田文夫 渡邊一夫